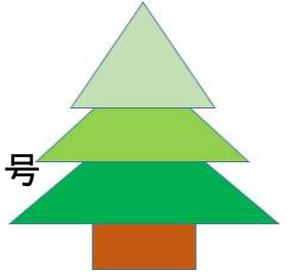




嵯峨宮頼り

第 35 号



嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2024 年 5 月 10 日

発行：嵯峨宮世話人会

折の内經由鳴神山へ産廃投棄 行政処分や逮捕者

頼り34号で、昨年暮れから県外ナンバーの産廃ダンプが毎日数十台も早朝から折の内方面へ行き来するのを懸念している事を紹介した。



その後新聞で保安林に許可なく土砂を搬入しているとして行政処分されたと報じ、翌々日には過積載を測定しようとしたら逃走し、逃げ込んだ残土置き場であろうことかパトカーの警察官を出られないよう抑え込むなどして現行犯逮捕された事が紙面に載った。不法投棄の産

廃業者を絵に描いたようなアウトローぶり、あきれたものだ。逮捕者を出した翌日からはさすがに産廃ダンプは通らなくなつて早朝の轟音で起こされることもなくなつた。

折の内から林道を行つて見ると道路は褶曲し、穴ボコの穴を運んで来た産廃で埋



めてある。産廃の中身は5cm位に砕かれたコンクリート片、瓦、ガラス、プラスチック、金属板、ケーブル、ゴム等々タイヤがパンクしそうな物まで混入している。林道の谷側二ヶ所



がすでに埋められ、ひとたび集中豪雨や地震が起きれば一気に崩壊しそうな埋め立てである。2021年熱海で発生した盛り土崩壊は土石流で何人も死者が出た。都会では再開発と称し次々とビル建替を行い大量の廃棄物を出す。SDG&Sとは名ばかり、廃棄物も地産地消して貰いたい。最近業者らしき人が折の内を挨拶回りしたようだ。心配である。

書類を



整理して一枚の黒ずんだ青焼きコピー紙が目に残った。四十九年前の昭和五十年に作成されたものである。「大間々町第二十一区公害対策委員会名簿」。谷ツ田から上田(かみだ)地区迄の住民代表二十二名が委員となり、阿久津守弘氏を委員長とし、山同賢治氏、鹿沼正一郎氏の二名

が相談役と記されている。すでに全員鬼籍にあり、詳しい話を聞けないのが残念だが、父や祖父達が地域を守るため半世紀前に一丸となつて立ち上がったことを示すものである。先人の決意の上に今の私達の環境が保たれて来た証である。我々も子や孫に評価されるよう生きたいものである。

ハンカチの木

小平瀬見の星野哲男さん宅で高さが10mもあるハン

カチの木に花が咲き新聞に紹介さ



れ賑わっている。原産国は中国で花にいた大きな白い苞葉が二枚垂れ下がると奇妙な形をしている。風が吹くと一斉にハンカチが振られた様で気分がよくなるのか。

大間々林業研究会 休会に入る

林業研究会は全国林業研究グループ連絡協議会を頂点に、県毎の同協議会さらに地域毎の同協議会があり、大間々林業研究会も東毛地区の同協議会に所属する団体である。大間々林業研究会の会員数は現在九名、昨年より二名減った。平均年齢は四月一



大間々林研 竹林整備作業風景

日で七十六・七歳である。高齢のため現在も現役で林業を生業とする会員は居らず、また入会して積極的に林研活動を行いたいとする者もいないため今年度から休会にした。今後は休会とは言えども何も

しないのではなく、身の丈に合った活動をし、希望があれば再開もやぶさかでない。少子高齢化の時代に過疎化する地域にあつては、従来の形態を引きずるのではなく一旦リセットし、更地化し、原点に帰り、必要とする組織へ見直しを図ろうと考える。

ゴミステーション 修繕 谷ツ田組

一月七日の強風では直径20cmもある梅や桜の枝が折れた。谷ツ田地区のゴミステーションも道路まで飛ばされ半壊した。数十年も前に親世代が手作りした木製で、使い勝手がよ



く出来ていて、これ迄何度かペンキを塗って長持ちさせてきたが老朽化で傷みが激しかった。この際新しくしたらどうかという意見もあつたが、費用も時間も掛かるため町会長・班長が協力し修繕した。コンパネ板二枚とペンキと刷毛等で一戸当たりの負担は五百円で済んだ。ゴミステーションの形態は自治体や町会に任されている。ガラス除けの網であつたり、金属製の棚や箱型等色々だ。トイレを見ればその家庭が分る、ゴミステーションを見ればその町会が分る、汚れがちのゴミステーションを清潔に保ち大切に使用したい。



里山を活かす会（星野哲男会長）

は三年前に発足し、小平の瀬見地区を中心に八重桜の苗木をすでに三百本植樹している。近隣住

民を中心に旧友やボランティア仲間、親族など賛同してくる人達で植えて来た。少子高齢化の影響でふるさとの荒廃した山や川辺・耕作放棄地などを見てこれでは益々過疎化する、ならばきれいにし、盛り上げる花を咲かそうという事で桜に決めた。ソメイヨシノは大きくなる



植えた桜の苗木を囲う会員

と電線や建造物に架かたり、てんぐ巣病にも罹患し易い。手入れが大変でかまいきれなくなるので、樹高の低い耐病性のある八重桜を選んだ。又協力者には公益財団法人「日本花の会」に入会して頂いた（会費五千円）。苗木十本とアドバ

カー「コマツ」の元社長河合良成氏の提唱で創立、花のまちづくりなど様々な活動を支援し潤いある環境づくりを推進している。

植付後は鹿の食害に苦労していると言う。メッシュや鉄筋、テープ、ネット等で一本つつ囲っても僅かな隙間から喰われ、角で囲いを破られ、猪には土を掘り返され、枯れたのを含めると植樹した苗木の一角はダメになった、と。鹿も角に網が絡まり四頭が死んだ。今は鹿の食べないミツマタを苗木の周囲に植える策を検討しているとのこと。又竹や籐は刈つても中々絶えず除草剤を併用したが、コロナ後価格が高騰してしまった。囲いや除草剤の費用を市に相談し助成して頂き続けられている、と。作業の安全に気を付け、花いっぱいにして子や孫たちが住みたいという小平にしたい、と頑張っていた。（阿直）